

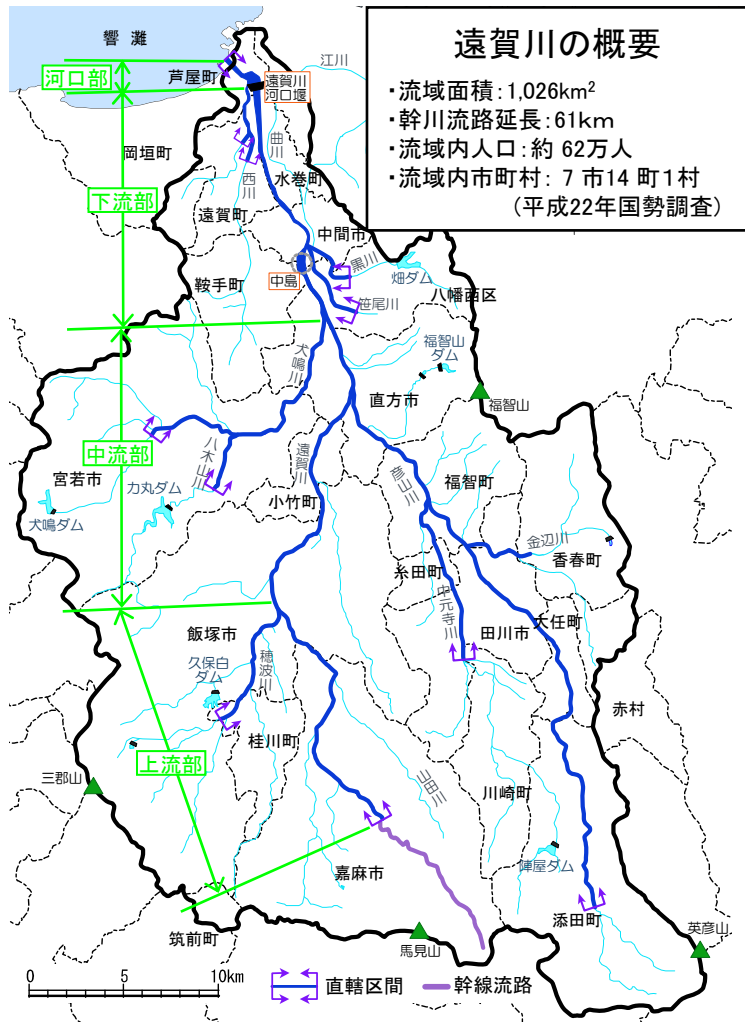
おんが
**遠賀川総合水系
環境整備事業**

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 遠賀川流域の概要〔遠賀川の概要と特徴〕

遠賀川流域概要図



■ 遠賀川流域の特徴

- ・ 遠賀川流域は、福岡県北部の**筑豊地方**における**社会、経済、文化の基盤**をなすとともに、**古くから続く稲作文化**や**石炭産業**によって、わが国の近代化や戦後復興に大きな役割を果たすなど、人々の生活や文化、経済と深く結びついてきた。
- ・ 石炭輸送に遠賀川が活用される一方で、**石炭採掘による農地や道路の陥没、堤防の沈下**等の**鉱害**が発生。そのため、**鉱害復旧事業**による河川改修が急速に進められ、**河道の直線化、河床の平坦化、高水敷の乾燥化**が進み、**瀬・淵、砂州、ワンド・たまり、ヨシ原**等が減少した。
- ・ 現在も流域の14%を農地が占める一方で、流域内各地には市街地が点在し、人口や資産の集積が著しい箇所もある。そのため、遠賀川には、**農業用取水堰等の横断工作物や湛水区間が多く存在し、流域の資産を守るための排水樋門・樋管が多く設置**されてきた。

■ 各区間の特徴

<上流部>

- ・ 上流部周辺の山々は**国定公園**や**県立自然公園**に指定され、**四季の景に恵まれた渓谷など豊かな自然環境**を有し、人々の憩いの場や身近な自然環境として親しまれている。
- ・ 遠賀川は、**扇状地に耕作地が広がり多くの堰により湛水域が連続**し、その水域には**モノアラガイ**等の魚介類が生息し、水際には**ツルヨシ**や**マコモ**群落が分布している。

<中流部>

- ・ 中流部では、**上野焼、高取焼等の焼物**や**平野部を利用した稲作**が盛んに行われている。
- ・ 遠賀川の河床勾配は緩く、流路の蛇行と広い高水敷が特徴的な河川景観となっており、**流路は緩やかに蛇行を繰り返**し、所々に**瀬や淵**が見られる。**高水敷は多目的の広場、人工草地**などとして利用され、河岸には、**ヨシ**や**オギ**群落が帯状に分布し、水域には**カネヒラ**や**ギギ**等の魚類が生息している。

<下流部>

- ・ 下流部では、右岸側を中心に北九州市の**ベッドタウン**として人口が集中している。中間市では、「遠賀川水源地ポンプ室」が、明治日本の産業革命遺産の構成資産のひとつとして2015年に世界遺産に登録された。
- ・ 遠賀川は、**遠賀川河口堰の湛水域**になっており、水際や植生は直線的な低水護岸により単調である。水域には、**止水性のギンブナ**や**コイ**、外来種である**オオクチバス**等の魚類が生息している。**下流部の自然豊かな空間として唯一まとまった面積を持つ中島**は、**湿性草木群落**や**竹林・木本**等の植生が多様であり、河畔林では**ツグミ**や**ムクドリ**等の様々な鳥類の採餌場、**ねぐら**となっている。

<河口部>

- ・ 遠賀川の**河口付近は干潟や砂浜が減少傾向**にある。わずかな干潟や砂浜には、**シギ**・**チドリ**類の採餌場となっており、また、**マゴコロガイ**等の底生生物の生息・生育場となっている。

1. 遠賀川流域の概要〔遠賀川の利用状況〕

＜遠賀川の利用状況＞

- ◆広い川幅を有する下流部は、高水敷において多目的広場やグラウンド、サイクリングロード等が整備され、日常の散策やスポーツ・レクリエーションの場として利用し、沿川住民のみならず広く地域の人々の身近な空間として親しまれている。
- ◆中上流部では、高水敷を利用したオートキャンプ場や芝生公園が河川公園として整備され、これらの施設を活用したカヌー・自然体験・レジャー・夏の風物詩である花火大会等、各所で地域イベントが開催され、多くの人々が訪れている。
- ◆支川の彦山川では、英彦山山系の自然のなかで、登山・バードウォッチング等の多彩なアウトドアを楽しむことができ、また、花火大会や福岡県の五大祭りの一つに数えられる川渡り神幸祭等が行われ、川との触れ合いが多い。
- ◆遠賀川流域では、約80の住民団体が環境保全活動等を展開しており、河川愛護活動や河川環境教育が盛んに行われている。また、河川を子供たちの環境学習の場として利用したいと考えている小中学校の先生方を支援するため、遠賀川河川環境教育研究会等を開催し、先生方が抱える問題点の解決策や多くの先生方が河川環境教育に取り組んでいけるような対応策の検討を行っている。



フットパス(中間市)



サイクリングロード(芦屋町)



のがたチューリップフェア(直方市)



いかだフェスタ(直方市)



納涼花火大会(飯塚市)



川渡り神幸祭(田川市)

1. 遠賀川流域の概要〔遠賀川水系の目標〕

＜河川環境の整備と保全に関する目標＞(遠賀川水系河川整備計画抜粋)

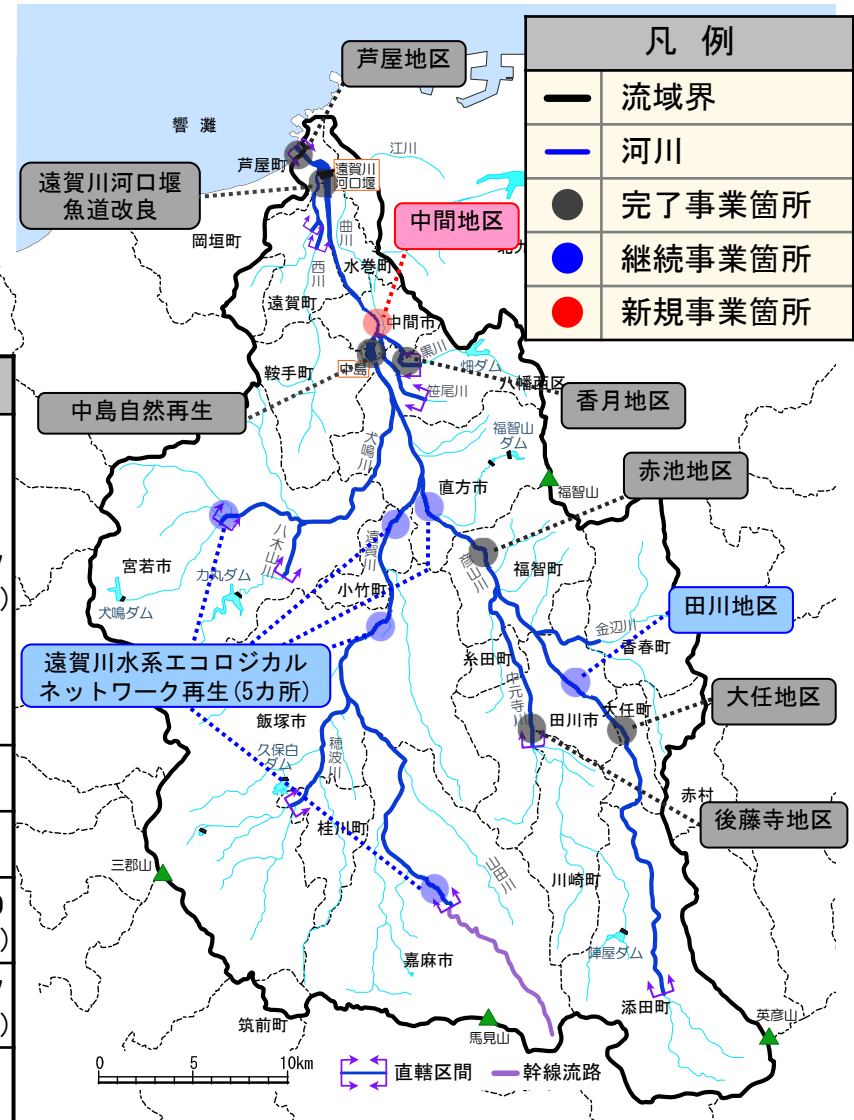
- ◆ 自然環境については、治水・利水面に配慮しつつ、地域と合意形成を図りながら遠賀川における多様な生物の生息・生育環境の保全・再生を目指す。
- ◆ 水質については、近年でも環境基準値を満たしていない地点があるため、地域住民や関係機関と連携し、流域全体で更なる水質の向上を目指す。
- ◆ 河川空間の利用については、親水活動の場、環境学習や自然体験の場、各種イベントや川にまつわる伝統行事の場としての利用など多面的な利活用に対する支援を行い、川の役割、人と川のつながりを継承し次世代へ引き継ぐため、親しみやすく、うるおいのある水辺空間を目指す。
- ◆ 地域を特徴づける歴史・文化を継承しつつ、その地域の景観を尊重し、河川を軸とした新たな観光や文化に発展するような魅力ある川づくりを目指す。
- ◆ 遠賀川における山から海までの連続性に配慮して、水量や水質、地域のつながりなどの視点から、川と人との交流と共生、住民参加による川づくりを目指す。

1. 遠賀川流域の概要〔遠賀川総合水系環境整備事業の概要〕

＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

今回は、遠賀川総合水系環境整備事業について、主に、遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生事業(継続事業)、田川地区水辺整備事業(継続事業)、及び、中間地区水辺整備事業(新規事業)を事業評価(再評価)に諮るものである。

事業名	区分	箇所名	事業期間	備考	
遠賀川総合水系環境整備事業	水辺整備	あしや 芦屋地区	平成21年度～平成23年度	完了箇所(H27年度報告済み)	
		かつき 香月地区	平成17年度～平成19年度		
		あかいけ 赤池地区	平成19年度～平成21年度		
		ごとうじ 後藤寺地区	平成21年度		
		おおとう 大任地区	平成17年度～平成21年度		
		たがわ 田川地区	令和元年度～令和11年度予定		継続箇所
		なかま 中間地区	令和3年度～令和12年度予定		新規箇所
	自然再生	遠賀川河口堰魚道改良	平成20年度～平成30年度	完了箇所(H30年度報告済み)	
		中島自然再生	平成16年度～平成26年度	完了箇所(H27年度報告済み)	
		遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生	平成21年度～令和10年度予定	継続箇所	



2. 遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の概要 [継続箇所]

<継続箇所の概要>

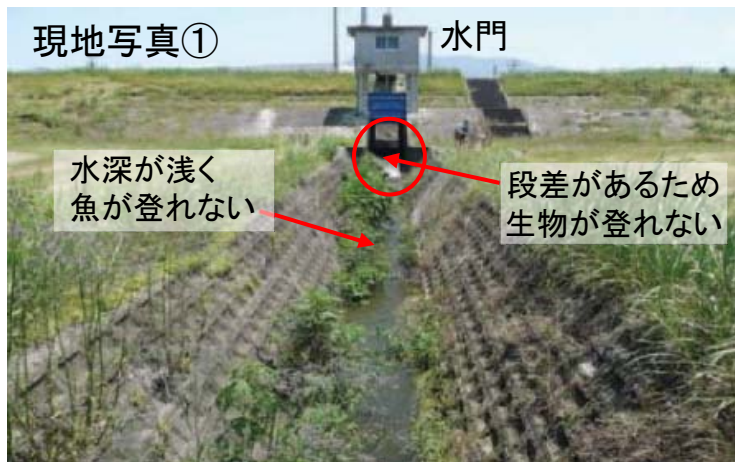
1) 事業の必要性等

◆遠賀川流域では、高度経済成長期の河川改修に伴う堤防整備と併せて、数多くの樋門・樋管が整備されてきた。川の横断方向(川表と川裏間)については、これら樋門・樋管の水路部の段差により、魚類等の移動経路が分断されている状況である。

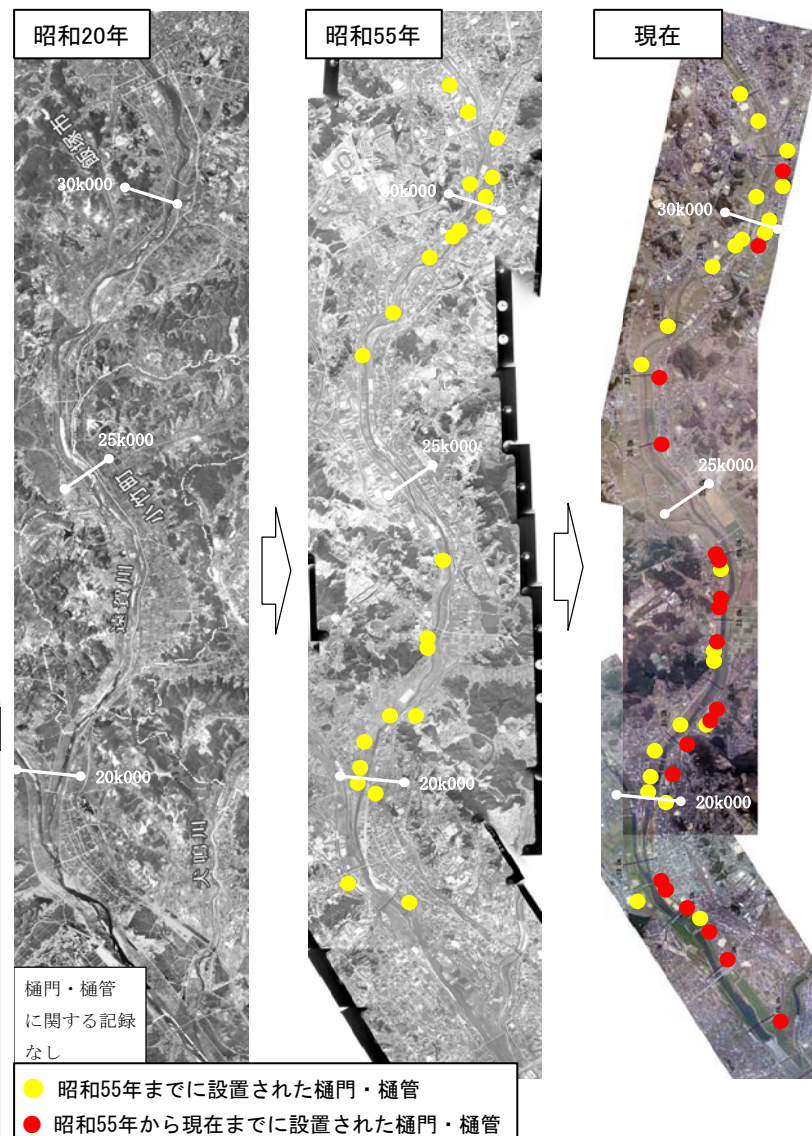
◆このため、川の横断方向の連続性を確保し、多様で豊かな自然の再生を図る。

【現地の状況】

現地写真①



現地写真②



遠賀川における樋門・樋管の設置の変遷

2. 遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の概要〔継続箇所〕

2) 事業の概要・目的

- ◆河川と水田や水路との連続性を分断している **樋門の落差などを解消**することで、**多様な生物が生息・生育・産卵できる環境を創出**するとともに、**環境学習や自然と触れあえる場**として利用しやすい構造の整備を実施している。

【概要】

位置	遠賀川水系彦山川下境地区 (彦山川0k900付近)、他4箇所
事業区分	自然再生
主な整備内容	排水路改良、低水護岸工、管理用通路、 モニタリング調査等
事業費	約10.0億円
整備完了年	令和5年度(予定)
事業期間	平成21年度～令和10年度(予定)

【工程表】

項目	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
排水路改良																					
低水護岸工																					
管理用通路																					
モニタリング等																					



2. 遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の概要〔継続箇所〕

3) 事業の投資効果(浄土橋地区を例に)

◆河川川表(河川側)の水路整備等により、**「評価種」や希少な「重要種」の確認数が増加傾向**にあり、**魚類等の生息場・避難場・産卵場として移動の横断性の確保が図られている**。今後は、水路・水田管理者により川裏(水田側)の整備を実施しつつ、**引き続き整備後のモニタリングを実施していく**。

重要種: 学術上の重要性などからみて貴重と考えられる生物種(環境省や福岡県指定)
 評価種: エコロジカルネットワークの事業特性から生息が期待される種

評価種・重要種が増加中!

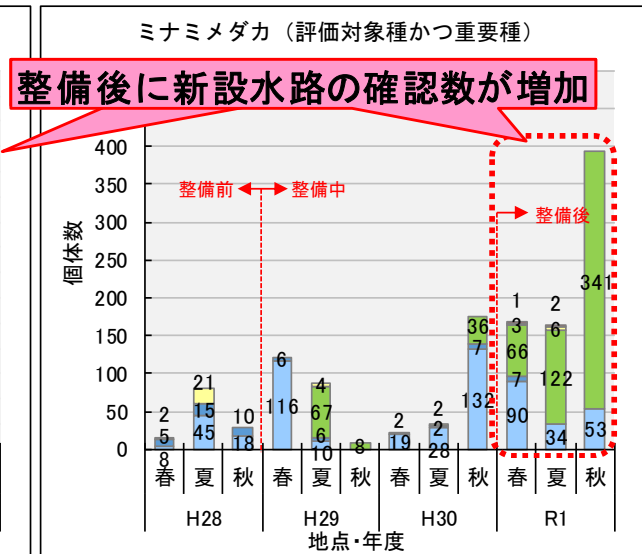
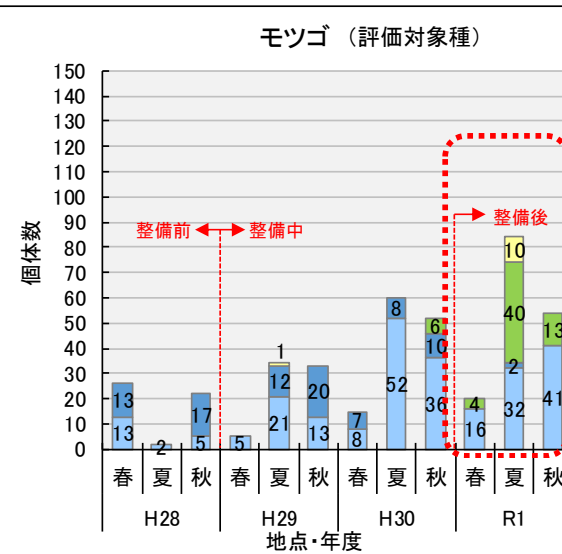
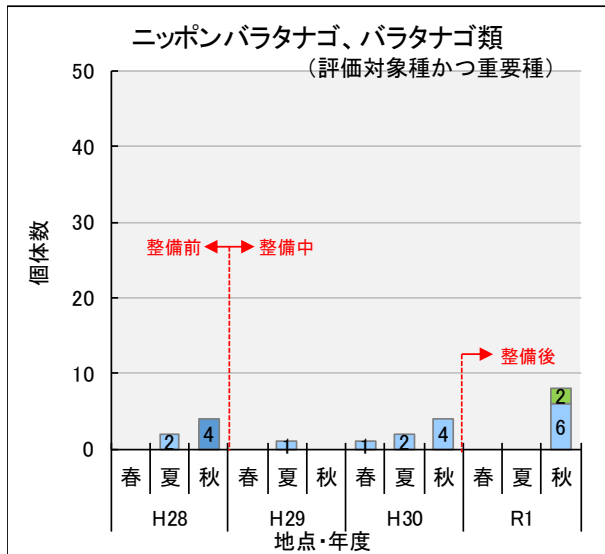
浄土橋地区(平成30年度完成)



- ・水路整備等により、河川内の「評価種」や希少な「重要種」が新設水路内で多く確認された。
- ・特に、水田や水路を好むモツゴやミナミメダカが川表新設水路で増加傾向にあり、生息場・避難場・産卵場として機能している。
- ・今後は水路管理者が、住民等と協議しながら川裏水路の整備を実施予定。



浄土橋地区の主な評価対象魚類確認数の経年変化



整備後に新設水路の確認数が増加

2. 遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の概要 [継続箇所]

4) 事業の推進体制

- ◆事業箇所では、調査から管理・モニタリング・評価までの一連の取り組み過程を連携・協働で実施するため、遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会や住民ワーキング等を開催し、学識者や関係自治体及び地域住民、NPO等の流域住民が一体となって持続的に参画していく仕組みを構築している。
- ◆整備が完了した箇所では、地域住民による維持管理等が実施されており、今後も整備内容や維持管理に関する会議を開催して地元関係者と一体となった取り組みを行っていく予定としており、引き続き地域の協力が見込まれる。



地域住民参加の生物調査



サケの稚魚の放流会実施



利用案内パネルの作成



地域協働によるオオキンケイギクの駆除



意見交換会（現地ワーキング）開催

3. 田川地区(水辺整備)の概要 [継続箇所]

<継続箇所の概要>

1) 事業の必要性等

◆田川地区は、遠賀川の支川彦山川が流れ、福岡県の五大祭りの一つである「川渡り神幸祭」等、川とまちが深い繋がりをもつ地域である。散策や川遊び、カヌー等の利用がみられる他、近隣の小中学校の環境学習や自然体験等が実施されている。

◆しかしながら、田川地区の中流域や上流域は水際に樹木が生い茂っており、河川敷にアクセス路がないなどにより水辺に近づきにくい状況であった。また、下流域では高水敷の不陸が大きく利用しにくい状況であることから、散策や環境学習などで地域の方が水辺空間を利用する際の安全確保が望まれている。

◆このため、良好な自然環境や河川周辺の魅力を活かしながら、さまざまな世代が集う水辺拠点として整備を行い、地域活性化を目指す。

田川地区 整備箇所



風治八幡宮 川渡り神幸祭



タガッパ学校
(環境学習・カヌー教室)



堆積土砂にヨシ群落等が繁茂し、水際に近づけない状況



河川の流水がなく溜まり場となり、水質悪化している状況

3. 田川地区(水辺整備)の概要 [継続箇所]

2) 事業の概要・目的

◆日常の散策や憩いの場、イベント、体験・環境学習など、地域住民はもとより**多くの方々に親しまれ、癒やしの水辺空間を創出**するとともに、河川利用者の安全性の向上、河川管理等の円滑化を図る。

【下流域】
高柳堰周辺の地域資源の魅力を高めた、活気のある空間づくり
⇒ カヌー乗り場の改善、イベント広場の整備

【中流域】
一年を通して彦山川や田川の歴史と文化に触れられ、憩える空間づくり
⇒ イベント広場、環境学習の場、散策路等の整備

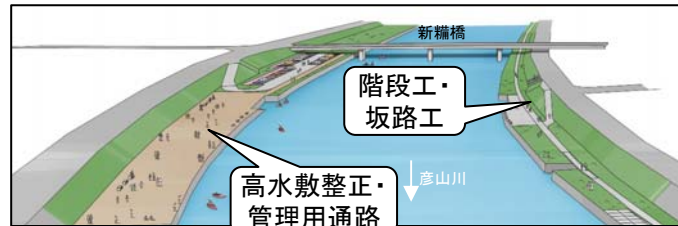
【上流域】
香春岳等の山々と彦山川の織り成す原風景と、自然を活かした親しめる空間づくり
⇒ 散策路、水遊び・環境学習の整備

【概要】

位置	彦山川11k000～17k000付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	親水護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正、分散型落差工等
事業費	5.3億円
整備完了年	令和6年度(予定)
事業期間	令和元～11年度(予定)

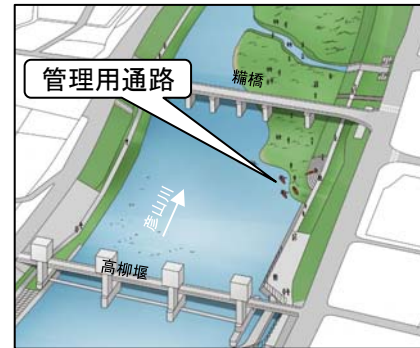
【整備イメージ】

下流域

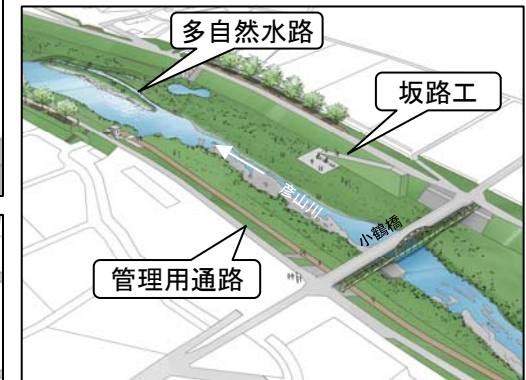


↑ 高柳堰上流

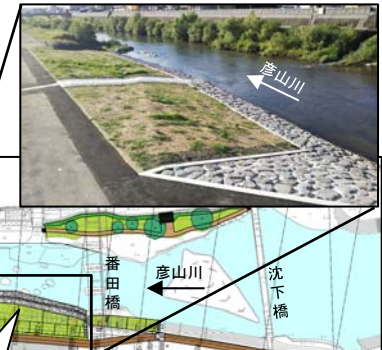
高柳堰下流→



上流域

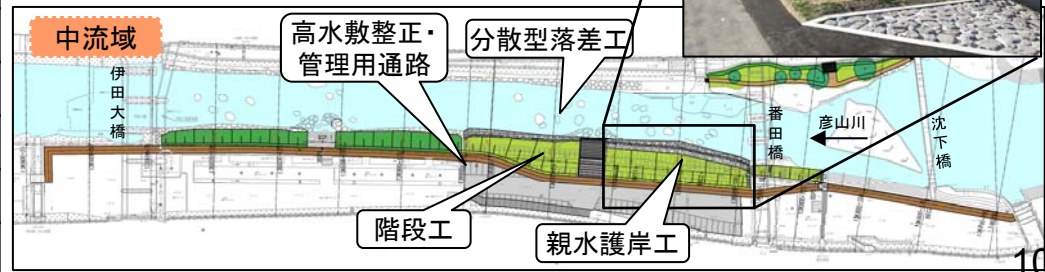


令和元年度整備実施箇所



【工程表】

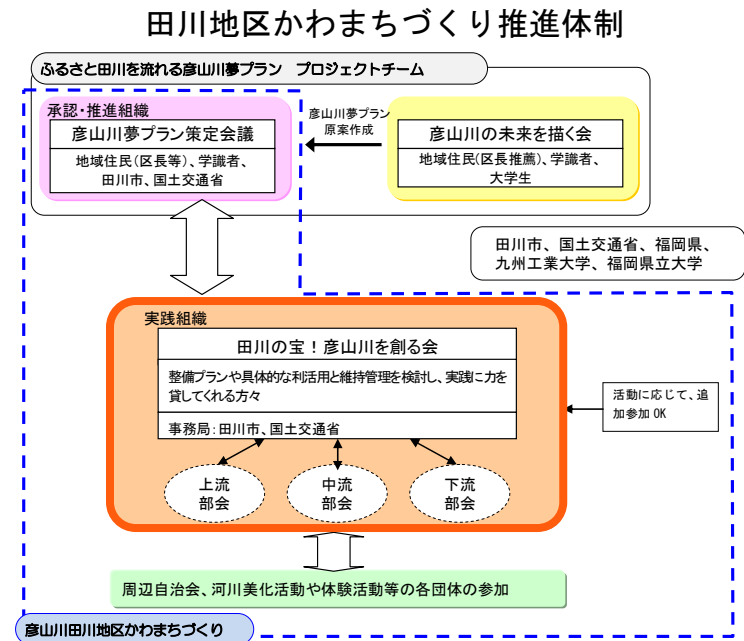
項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
親水護岸工	■										
階段工	■	■	■	■	■						
坂路工			■	■	■	■					
管理用通路	■	■	■	■	■						
高水敷整正		■	■	■	■	■					
分散型落差工	■	■			■						
測量設計等	■	■	■	■	■	■					
モニタリング等							■	■	■	■	■



3. 田川地区(水辺整備)の概要 [継続箇所]

3) 事業の推進体制

- ◆学識者、住民代表、関係行政機関及び河川管理者により構成される「田川の宝！彦山川を創る会」を平成27年10月に設立し、令和2年2月までに計10回の検討会を開催し、現地協議を重ねながら具体的な整備プラン等の検討を進めている。
- ◆整備対象箇所では、現在においても利活用の試行実践や、地域のボランティア団体を設立しゴミ拾いの美化活動等の維持管理を行っており、引き続き地域の協力が見込まれる。



上流部会 現地視察の状況



試行イベント「彦山川で水辺あそび」開催状況



ボランティア団体「田川の宝！彦山川を創る会 中流部会」による維持管理活動

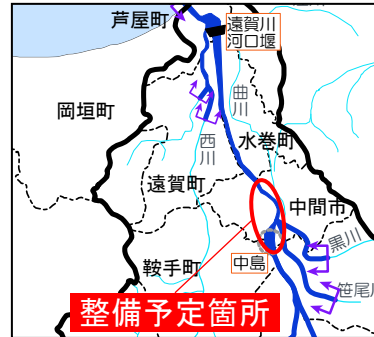
4. 中間地区(水辺整備)の概要 [新規箇所]

＜新規箇所の概要＞

1) 事業の必要性等

- ◆ 中間地区は、平成27年に登録された世界遺産『遠賀川水源地ポンプ室』を巡る観光客や、なかまフットパス等の河川敷で行われる様々なイベントや釣り・スポーツを楽しむ市民の方々に広く利用されている。
- ◆ しかしながら、エリア全体を一体的に活用するためには、河川敷の通路を安全に周遊出来ない等、拠点間の回遊性に課題がある。また、現状の護岸や水辺は近づきにくく、河川敷へのアクセス路が無いこと等から、安全な水辺の利用が困難な状態である。
- ◆ このため、河川の良い自然環境や世界遺産等の“まち”と“水辺”の魅力を繋ぎ、活かしながら、さまざまな世代が集う水辺拠点として整備を行い、地域活性化を目指す。

中間地区 整備予定箇所



世界遺産「遠賀川水源地ポンプ室」



遠賀川河川敷の鯉のぼり



土砂堆積や草木の繁茂により水辺に近づくことができない。また、広場に雨水が溜まりやすい



なかまフットパス



河川敷に凹凸があり、街中からのアクセス路が無いため、安全に河川敷にアクセスできず、広いスペースを十分に活用できない



車両が水際を通行するため、広場でくつろぐ人々が安全に水辺に近づけない

4. 中間地区(水辺整備)の概要 [新規箇所]

2) 事業の概要・目的

◆地域住民・市民活動団体・中間市・河川管理者等が知恵を出し合うことで“まち”と“水辺”を繋ぎ、**地域の自立的・持続的な活性化**や、**賑わいのある河川空間を創出**するとともに、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、**管理用通路や高水敷整正等**を整備していく予定である。

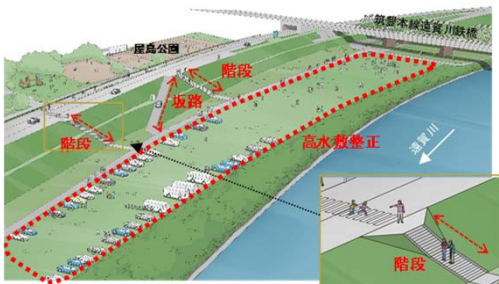
【整備イメージ】



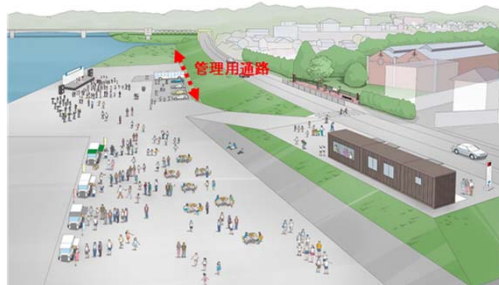
市役所前の高水敷・水辺を活用するゾーン
(左：遠賀橋下流、右：遠賀橋上流)



緑：高水敷でスポーツ等を楽しむゾーン
青：市役所前の高水敷・水辺を活用するゾーン
黄：世界遺産・中島を活用するゾーン



高水敷でスポーツ等を楽しむゾーン



世界遺産・中島を活用するゾーン

【概要】

位置	遠賀川8k800～12k400付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	親水護岸工、階段護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正等
事業費	7.8億円
整備完了年	令和7年度(予定)
事業期間	令和3～12年度(予定)

【工程表】

項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
親水護岸工		■								
階段護岸工				■						
階段工					■					
坂路工					■					
管理用通路		■	■	■						
高水敷整正		■	■	■	■	■				
測量設計等	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
モニタリング等							■	■	■	■

4. 中間地区(水辺整備)の概要 [新規箇所]

3) 事業の推進体制

- ◆自治会、NPO法人、商工会、学校関係者、関係行政機関及び河川管理者により構成される「遠賀川かわまちづくり推進協議会」、「遠賀川かわまちづくり作業部会」を設立し、かわまちづくり計画の検討を進め、平成31年3月に「遠賀川中間地区かわまちづくり」としてかわまちづくり支援制度に登録された。
- ◆令和2年2月までに計7回の検討会・作業部会を開催し、具体的な整備プラン等の検討を進めている。
- ◆整備対象箇所は既に中間市が占用しており、現在においても利活用の可能性を検証する社会実験「月見で乾杯！in遠賀川」や維持管理に関する協議が継続的に行われているため、引き続き地域の協力が見込まれる。

中間地区かわまちづくり推進体制



「遠賀川かわまちづくり推進協議会」の開催状況



現地視察会の状況



河川敷での社会実験「月見で乾杯！in遠賀川」の開催状況

5. 前回評価時からの変化

※中間地区水辺整備の追加

○中間市では、**平成27年に「遠賀川水源地ポンプ室」が世界遺産に登録**されたことを踏まえ、世界遺産と隣接する**遠賀川と一体となった観光拠点**として、かわとまちとの連続性・回遊性・利便性を高め、訪れた観光客を川へと導き、遠賀川の魅力を体験できる空間づくりを行うための水辺整備が必要となった。このため、今回中間地区の水辺整備が新規事業として追加された(事業費7.8億円)。

【整備箇所(中間地区)の追加】

＜前回評価時の整備予定箇所＞



＜今回評価時の整備予定箇所＞



□ : 前回と同じ整備箇所 □ : 今回追加した整備箇所

5. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (平成30年度)	今回評価時 (令和2年度)	変更理由
総事業費	約45.7億円 【水辺整備】 ・芦屋地区 : 約4.2億円 ・香月地区 : 約2.7億円 ・赤池地区 : 約2.4億円 ・後藤寺地区 : 約1.6億円 ・大任地区 : 約4.7億円 ・田川地区 : 約5.3億円 【自然再生】 ・遠賀川河口堰魚道改良 : 約6.2億円 ・中島自然再生 : 約8.6億円 ・エコロジカルネットワーク : 約10.0億円	約53.5億円 【水辺整備】 ・芦屋地区 : 約4.2億円 ・香月地区 : 約2.7億円 ・赤池地区 : 約2.4億円 ・後藤寺地区 : 約1.6億円 ・大任地区 : 約4.7億円 ・田川地区 : 約5.3億円 ・中間地区 : 約7.8億円 【自然再生】 ・遠賀川河口堰魚道改良 : 約6.2億円 ・中島自然再生 : 約8.6億円 ・エコロジカルネットワーク : 約10.0億円	・水辺整備事業の新規整備(中間地区)による事業費の追加、事業完了年の変更。
事業完了年	令和8年度	令和12年度	
B/C	8.8	8.0	
B(便益)	約664.4億円	約683.1億円	
C(費用)	約75.3億円	約85.1億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。
 ※各事業費の四捨五入により、総事業費と各事業費の合計があわない箇所がある。

6. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

<費用対効果等>

	事業費	主な整備内容	便益 (B)	費用 (C)	B/C
全事業	53.5億円	—	683.1億円	85.1億円	8.0
完了事業	30.4億円	—	583.0億円	56.4億円	10.3
水辺整備	15.5億円	—			
芦屋地区	4.2億円	水制工、階段工、管理用通路			
香月地区	2.7億円	護岸工、河床整正、管理用通路			
赤池地区	2.4億円	階段工、管理用通路			
後藤寺地区	1.6億円	階段工、階段護岸、高水敷整正			
大任地区	4.7億円	河岸保護工、階段工、坂路工、管理用通路			
自然再生	14.8億円	—			
中島自然再生	8.6億円	掘削、管理用通路、モニタリング調査			
遠賀川河口堰魚道改良	6.2億円	既設魚道改良、多自然魚道新設、モニタリング調査			
継続事業	23.1億円	—	100.1億円	28.7億円	3.5
自然再生	10.0億円	—	16.5億円	12.6億円	1.3
遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生	10.0億円	排水路改良、低水護岸工、管理用通路、モニタリング調査等	16.5億円	12.6億円	1.3
水辺整備	13.1億円	—	83.6億円	16.2億円	5.2
田川地区	5.3億円	親水護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正、分散型落差工等	16.2億円	6.4億円	2.6
中間地区	7.8億円	親水護岸工、階段護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正等	67.4億円	9.8億円	6.9

	アンケート実施時期	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計対象世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
中間地区水辺整備	令和2年度	1,500	318	半径10km圏内	88,299	350
エコロジカルネットワーク再生	平成27年度 平成30年度	757	111	半径2km圏内	10,621	525
田川地区水辺整備	平成27年度	1,000	97	半径10km圏内	22,515	318

7. 事業の投資効果_[まとめ]

《効果名》

【効果の概要】

① CVM手法による便益の算出：約683億円

(生物の良好な生息・生育環境の保全・復元、良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等)

② 地域の歴史文化を活かした教育効果

(田川地区) 福岡県の五大祭りの一つ「川渡り神幸祭」を通じた地域の歴史文化の継承
(中間地区) 世界遺産「遠賀川水源地ポンプ室」を通じた地域の産業文化の継承

P9、P12

③ 地域のにぎわいの創出

(田川地区・中間地区) 水辺イベントの開催の場
(中間地区) 世界遺産「遠賀川水源地ポンプ室」を核とした観光拠点の創出

P11、P14

④ 治水安全性の向上

(田川地区・中間地区) 河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P10、P13

⑤ 良好な自然環境の保全

(エコロジカルネットワーク再生)

- ・ 堤内側と堤外側の横断的連続性の再生と生物の生息場としての機能向上
- ・ 自然環境の保全に対する住民意識の向上
- ・ 自然環境の保全による新たな環境教育の場の創出

P7、P8

⑥ 費用対効果分析 (算定に用いた効果①)

全体事業 (B/C) : 8. 0

継続事業 (B/C) : 3. 5

8. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、継続事業である遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生は令和10年度に、田川地区水辺整備は令和11年度に完了予定である。新規事業である中間地区水辺整備では、令和3年度から事業に着手し、令和12年度に完了予定としたい。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆引き続き、事業箇所毎に住民代表者との意見交換を行い、地域の一体となった整備箇所の活用方法や維持管理の役割分担等について議論を重ね、実施していく予定である。
- ◆このように「遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生」「田川地区水辺整備」「中間地区水辺整備」では、これからも地域の協力体制のもと計画を創り上げていくこととなっており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆各事業箇所毎の整備内容は、検討会や各会議、住民ワーキング等において、計画段階から地域住民等と継続的に協議を重ね、河川管理面、河川利用面を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

9. 対応方針(原案)

遠賀川総合水系環境整備事業については、以下の効果が見込めることから、**引き続き事業を継続**することとしたい。

【自然再生事業】

◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生（継続事業）について

- ・整備完了箇所において、堤内側と堤外側の横断的連続性の再生により評価種・重要種が増加しており、生物の生息場としての機能が回復しつつあること
- ・事業を通じて、自然環境の保全に対する住民意識が向上していること
- ・自然環境の保全により、新たな環境教育の場が創出されていること
- ・学識者、関係自治体、地域住民、NPO等が一体となって事業に取り組んでいること
- ・費用対効果についても確保されていること（B/C=1.3）

【水辺整備事業】

◆田川地区水辺整備（継続事業）について

- ・地域の歴史文化（福岡県の五大祭りの一つ「川渡り神幸祭」）の継承に資する事業であること
- ・利活用の試行実践やボランティア団体の設立等、地域の賑わいの創出に資する事業であること
- ・水辺へのアクセス性の向上等、河川空間の利用者の安全性向上に資する事業であること
- ・学識者、関係自治体、地域住民等が一体となって事業に取り組んでいること
- ・費用対効果についても確保されていること（B/C=2.6）

◆中間地区水辺整備（新規事業）について

- ・世界遺産「遠賀川水源地ポンプ室」を核とした観光拠点の創出に資する事業であること
- ・整備前の現在においても社会実験が行われる等、地域の賑わいの創出に資する事業であること
- ・アクセス性や回遊性向上等により、河川空間の利用者の安全性向上に資する事業であること
- ・維持管理に関する協議が継続的に行われており、事業に対する地域の協力体制が整っていること
- ・費用対効果についても確保されていること（B/C=6.9）